1 年次開講科目

科目名:人間の心・精神

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的: 多岐にわたる心理学の領域、研究及び歴史についての基礎的知識を習得する。

目標: ■心の働きやシステムについて理解を深める。

■心理学の歴史や研究における知識を得る。

■心理学の基礎的または応用的分野における主要な人物、用語及び研究成果に関する説明ができる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	心理学とは何か		
2	発達心理学とは何か		
3	生理心理学とは何か		
4	知覚心理学とは何か		
5	認知心理学とは何か		
6	学習心理学とは何か		
7	教育心理学とは何か	講義	
8	パーソナリティ心理学とは何か	神 我	外部講師
9	社会心理学とは何か		
10	産業・組織心理学とは何か		
11	臨床心理学とは何か		
12	人の"こころ"をどう測るか		
13	心理学研究法とはどのようなものか		
14	(ゲストティーチャー)臨床に携わる者としての心構え		
15	心理学の歴史をたどる(まとめにかえて) 単位認定試験	講 義 筆記試験	

評価方法

評価	割合	評価および注意
授業への参加*	授業への参加 30%	*授業への参加とは、授業の出席、参加態度、
単位認定試験	単位認定試験 70%	課題提出及び内容を含みます。

受講上の注意

ペアワーク (PW)、グループワーク (GW) を行う際は、積極的に参加を行って下さい。 ※コロナウィルス感染に留意し、罹患が懸念される場合は PW、GW を行わない場合もあります

テキスト・参考文献

テキストは特に使用しません。毎回プリントを配布します。 参考文献は必要に応じ授業中に示します。

科目名:人間と文化・社会

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的:人はひとりで生きているのではなく、生まれてからその命を終えるまで他者との関係の中で生き、活かされています。他者との関係を見つめるにあたって人間の行動様式、パーソナリティ、社会的関係、家族集団などについて焦点を絞りながら、看護師として患者を援助する最適な方法を見出す力を身につけていきます。また、他者に援助を行うということは、自己が安定していなければ困難になる場合もあります。自分自身の生活と幸せについても、あわせて考えていきます。

目標:①社会構造や制度を含めた、社会のメカニズムについて理解できる。②社会科学がもちいてきた認識方法を身につけることができる。③文化や社会の多様な側面やその変動を捉えることができる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	現代社会を理解するための基礎理論	講義	
2	社会学とは何を扱う学問なのか	講義	
3	家族・親族集団を考える	講義	
4	家族の分類と類型	講義	
5	自己という存在は何か	講義	
6	自己と他者の関係	講義	
7	社会的文化・性差としてのジェンダー	講義	外部講師
8	性の多様性	講義	
9	家族形成と文化	講義	
10	家族変動と社会背景	講義	
11	ライフサイクルの変化と、ライフコース	講義	
12	危機と対処・回復過程について	講義	
13	社会資源の活用	講義	
14	高齢者をめぐる社会的紐帯	講義	
15	人間関係からみた現代的変容 単位認定試験	講義 筆記試験	

授業の評価計画

評価種別	割合	詳細及び注意
授業参加度(発言シート)	15%	発言シートは提出日まで個人で管理保管して下さい。
レポート等の提出物	20%	定められた期日までに、提出した場合、得点となります。
筆記試験(単位認定試験)	65%	試験の際、持ち込みは一切できません

受講上の注意

私語は厳禁に致します。本講義ではすべての講義時間に発言や発表を求めます。講義初日に配布する「発言シート」を、毎回の講義に持参し、最終講義日に必ず提出して下さい(成績評価にかかわります)。

テキスト・参考文献

テキスト:使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

参考文献:友枝敏雄、竹沢尚一郎、他書、「社会学のエッセンス 新版補訂版」有斐閣

森岡清美 望月嵩 著「新しい家族社会学」培風館

科目名:人間と環境

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

産業革命以後、科学技術が発展し、化石燃料を使用することにより、私たちは豊かな生活を享受してきたが、 それらの人間活動により地球温暖化が進む中、熱波、大洪水、干害、山火事などがおき、もはや猶予なしの状態 に至っている、国連も SDGs(持続可能な発展目標)を提唱しているが、これは今私たちが手を尽くさなければ、 地球や人間の生活が"有限"となってしまうということを意味している。

本講義では、主な環境問題について、原因、現状、対策などをわかりやすく解説し、環境問題に対する正確な知識を身につけてもらい、その深刻さを十分理解してもらう。また、環境問題に対するレポートを課すことにより、身の回りで起こっている環境問題に対して関心をもってもらい、現在、私達ができることを考えるきっかけにしてもらう。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	Introdouction(講義內容等) 生態系	講義	
2	人類の歴史と人口増加	講義	
3	地球温暖化	講義	
4	地球温暖化	講義	
5	オゾン層の破壊	講義	
6	熱帯雨林の減少	講義	
7	砂漠化	講義	
8	生物種の絶滅と保全	講義	外部講師
9	外来生物の影響	講義	
10	大気汚染	講義	
11	大気汚染	講義	
12	酸性雨	講義	
13	水質汚濁	講義	
14	水質汚濁	講義	
15	エネルギー問題、食、住の安全 単位認定試験	講義 筆記試験	

評価方法

種別	割合	評価及び注意
筆記試験	80~90%	筆記試験
レポート	10~20%	環境問題に対する感想、意見

受講上の注意

板書したものを各自しっかりノートをとる。(試験は主にノートから出す。) 授業以外で、環境問題に関する記事などに注意して、レポートを書く。

テキスト・参考文献

テキスト:使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

参考書: 地球環境と私たちの暮らし 住 明正 著 実業之日本社 他

科目名:人間と癒し・生活

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的:看護に従事する者にとって、「人間を癒す」ということはどういうことか、という問題は、もっとも根源的でかつ常に念頭に置くべき事項であり、その明確化をはかる。

目標:いかなる物理的・心理的・社会的状況の現出によって、人は癒しを得るのか、ということについて、理解を深め、そうした状況の創出のために何が必要なのかを学ぶ。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	自己知覚・自己開示と対象の多面的・多角的理解の重要性	講義	
2	「癒し」の定義と「苦」の重層性・主観性	講義	
3	「癒し」のパターンと種類	講義	
4	「最良の癒し」とは	講義	外部講師
5	「癒し」の相互性とバーンアウト	講義	クトロか番印り
6	「自己治癒力」とは	講義	
7	癒しの本質を探る	講義	
8	単位認定試験(45分)	筆記試験	

授業の評価計画

種別	割合	詳細
筆記試験	50%	提出物に関しては、提出期限が守れたかどう
提出物	40%	かとその内容の両面を評価基準とする
受講態度	10%	

受講上の態度

将来の自らの職業生活をも想定しながら、講義に臨んでほしい。また、授業形態は「講義」が主ではあるが、なかに「演習」的要素も多分に含み授業を進めていくので、ぜひそれらにも積極的に参加してほしい。

身構える必要もないが、けじめのない態度での受講も慎み、お互いに節度ある関係性のもとで授業が進行できるよう努めたい。

テキスト・参考文献

テキストは特に定めず、参考文献は適宜紹介に努めたい。

科目名:人間と倫理・社会

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

倫理学は、人間関係、人間の共同体の根底にある秩序・道理を明らかにする学問である。人は他者と幸せに生きていくために、「人としてあるべき道」を求めるとともに、お互いの価値を認め、社会の中で共生していくことが必要になる。

本講は、いのち・人権尊重を基盤に据え、今日的人権課題の実態を直視する。その上で、科学的・論理的・客 観的な人間認識を培う事をねらいとしたい。その事が、専門的分野で学ぶ生命倫理、臓器移植、看護倫理などの 職業倫理の意識高揚と結び、看護師としての日々の心構えの基盤をなすよう導きたい。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	いのちをどう学び、どう捉えるか	講義 グループセッション	
2	違い(多様性)を豊かさにする道筋	講義 グループセッション	
3	科学的認識とこの国の差別意識の根源	講義 グループセッション	
4	女性の人権と私たちの権利意識	講義 グループセッション	外部講師
5	女性活躍社会の実現に向けて	講義 グループセッション	
6	言葉の力といのちの見え方	講義 グループセッション	
7	身近にある示唆を引き寄せる生き方	講義 グループセッション	
8	単位認定試験	筆記試験	

授業の評価計画

種別	割合	詳細
筆記試験	100%	

テキスト・参考文献

参考文献:講義中に適宜紹介する。

科目名:人間関係論

単位及び時間数(配当年次):1単位 20時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

看護は、看護者と患者の人間関係を基盤に展開される援助行為である。双方の人間関係のあり様が看護の質に 影響する。目の前の患者を自分自身の価値観で評価せずその人のありのままを受け止めることが大切である。よ り良い看護者に成長していくためにはまず自分はどんな人間かを知ることが必要である。学習の場を教室、日常 から離れた場で自分を解放し創造性を養い感性を磨き、「他者理解は自己理解から」をテーマに自己理解を深める。

時間	授業内容	授業形態	担当者
1	導入:本講の目的 アイスブレイク	講義	外部講師
2	自己概念と自己理解 何を伝えようとしているか	講義・演習	
3	傾聴 アサーティブコミュニケーション 振り返り ⇔ 他者コメント	演習	
	復習:困難なところを振り返る アイスブレイク		
4	グループワーク	講義・演習	
5	協働し目標を達成するとき、妨げとなる因子に対する対策		
	発表会 振り返り ⇔ 他者コメント		
6	クラスワーク	演習	
7	クラスワーク 個人発表		
8	「人間関係の不安を力に変える」 振り返り ⇔ 他者コメント	講義・演習	
	レポート作成:第2の自己と対話する		
9	冷静でない自分との向き合い方 マインドセット	演習	
10	実践報告レポート作成	演習	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
レポート	100%	

テキスト・参考文献

書名	出版社
特になし	

受講上の注意

連続3日間の集中研修となります。

詳しいオリエンテーションを別途行います。(内容が変更する場合があります)

集中講義なので体調管理に十分留意して下さい。

後日配布する要項を参照し、忘れ物がないようにして下さい。

科目名:コミュニケーション I (一般)

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標: コミュニケーションとは、互いの考えや気持ち、価値観を伝える行為である。コミュニケーションは言葉だけでなく自分自身の立ち居振る舞いや身振り手振りといった動きを加えて自分の気持ちや考えを相手に伝えたり、相手から伝えられたりすることでなりたつ。本講義では、人間関係形成に大きく影響を及ぼすコミュニケーションの意義と方法について、演習を織り交ぜながら理解し、コミュニケーションに必要な態度を身に付ける。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	コミュニケーションとは。接遇(言語的・非言語的	講義・コミュニケーション演習	外部講師
1	コミュニケーション、表情、立ち居振る舞い)	グループワーク	
2	脳とストレスの仕組みから、自己の思いに気づく	講義・コミュニケーション演習	
2		グループワーク	
3	潜在意識の仕組みから、他人と自己の違いに気づく	講義・コミュニケーション演習	
J		グループワーク	
4	どんな人が信頼を得るのかを知り、信頼関係を築く	講義・コミュニケーション演習	
4	傾聴の姿勢を学び、体験する	グループワーク	
5	伝える前に必要な感情の整理の方法を学び、体験す	講義・コミュニケーション演習	
3	る	グループワーク	
6	相手と信頼関係を築くための伝える方法、姿勢を知	講義・コミュニケーション演習	
0	り体験する	グループワーク	
7	コミュニケーションをスムースにする質問トレー	講義・コミュニケーション演習	
1	ニング	グループワーク	
8	単位認定試験(45分)	筆記試験	_

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	90%	
課題	10%	

テキスト・参考文献

テキスト マインドワークベーシックてきすと

随時資料を提示します。

参考文献は必要に応じ授業中に示します

科目名: 死生学

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的: 医療に関わる者は死と日常的に向かい合わねばならないため、普段から死について考え、確固たる死生観を持ち合わせておく必要がある。また、死に対する深い考察は、死に直面する人が抱える苦痛や悩みの共感的な理解にもつながっていく。本授業では、受講者が講義を通して死を身近の問題として捉え、考えていくための手がかりを提供し、医療現場における生と死の問題に対応するための基礎的な素養を身につけることを目的とする。

目標 : 死生学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、自分なりの生と死に対する考え方をもつことができるようになることを目標とする。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	オリエンテーション、死生学とは?	講義	
2	死に直面した人間の心理 ①	講義	
3	死に直面した人間の心理 ②	講義	
4	死別の悲しみと遺族支援:グリーフケア	講義	bl 立たまり工
5	青年期における死:自殺予防	講義	外部講師
6	死をめぐる現代医療の課題:脳死と臓器移植	講義	
7	死の自己決定権:尊厳死と安楽死	講義	
8	単位認定試験(45 分間)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	100%	持ち込み不可

受講上の注意

配布したレジュメを中心に、適宜板書しながら授業を進めていく。7回の講義のうち、グループワークや動画鑑賞も予定している。

参考文献

新体系 看護学全書 別巻 生と死の看護論 メヂカルフレンド社

科目名: 論理的思考

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的: 論文の基本的な書き方を習得する。

到達目標: 1. 原稿用紙の正しい使い方に慣れる。

2. 三分節法による文章構成ができる。

5. 2400 字のレポートが書ける。6. 5000 字の論文が書ける。

3. レポートの書き方の基本を習得する。

回数	授業内容(講義―レポート課題)		授業形態	担当者
1	1章 文 章 の 基 本	文章を書く思い	講義・演習	
2	2章 書 く 意 義	問題解決態度の考察	講義・演習	
3	3章 読点の使い方	読点の使い方の考察	講義・演習	
4	4章 良い作品の要素	他者からの自己考察	講義・演習	
5	5章 看護観の書き方	私の看護観	講義・演習	
6	6章 事 例 研 究	書く思いの途中評価	講義・演習	
7	7章 専門用語の問題	略語使用の問題	講義・演習	
8	8章 日本語の論理	人の物扱いの考察	講義・演習	外部講師
9	9章 敬 語 の 論 理	敬語を使う理由	講義・演習	
10	10章 美 し い 文 章	美しい文章の考察	講義・演習	
11	11章 推 敲 の 仕 方	推敲の仕方の考察	講義・演習	
12	12章 漢 字 の 論 理	誤字の考察	講義・演習	
13	13章 現代仮名遣い	書く意識変化の評価	講義・演習	
14	14章 情報の意味の読取り	質問の傾向の分析	講義・演習	
15	資料 授業設計と看護設計	看護設計について	講義・演習	

評価方法

種別	割合	詳細
必修。15回 レポート	未提出は減点	1回当たり6点減点
選択 1. 2400 字 レポート	自己評価と講師評価	自己評価 60点 - 74点
選択 2. 5000 字 レポート	自己評価と講師評価	自己評価 75 点 - 84 点
選択 3. 5000 字 論文	自己評価と講師評価	自己評価 85点 - 100点

受講上の注意

電子辞書(高額だが『看護学大辞典』が入った機種がお奨め)・A4 原稿用紙・鉛筆・消しゴム持参 講義形式は受講者参加型である。60 分講義 30 分レポートを 15 回行う。30 分で書けない場合や欠席した場合 には、後日に提出すること。未提出は減点される。

テキスト・参考文献

テキスト : 『看護学生のためのレポート・論文の書き方 第7版』 髙谷 修 金芳堂 2022

科目名:情報と情報処理

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的: 統計の基礎知識の修得とコンピューターリテラシーの向上、 ICT についての基礎知識の修得。

目標: パソコンによる文書作成・表計算・プレゼンソフト・ネット検索の方法、統計の基本的事項の修得

と、それらを用いて情報発信のためのプレゼンテーションができる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	情報と情報社会:情報の定義と特徴 情報社会	講義	
2	倫理:情報倫理と医療倫理、患者の権利と情報 個人情報と情報の保護、コンピューターリテラシーとセキュリティ	講義	
3	文字情報の整理	実習	
4	文字情報の整理: Word 演習	実習	
5	文字情報の整理: Word 演習	講義	
6	情報処理:既存の情報収集、調査によるデータ収集方法	講義	
7	Excel 演習	実習	
8	Excel 演習	実習	外部講師
9	Excel による情報解析	講義	
10	Excel による情報解析	講義	
11	情報の発表とコミュニケーション	講義	
12	情報の発表とコミュニケーション: Power Point 演習	実習	
13	情報の発表とコミュニケーション: Power Point 演習	実習	
14	情報の発表とコミュニケーション: Power Point 演習	実習	
15	情報の発表とコミュニケーション:プレゼンテーション	実習	

授業の評価計画

種別	割合	詳細
パソコン実習点	50%	
(プレゼンテーションを含む)		
統計レポート点	50%	

テキスト・参考文献

テキスト: 系統看護学講座 看護情報学 医学書院

使用図書: はじめてのWord&PowerPoint2013 秀和システム(授業開催中 一人 200 円で貸出)

その他

授業時に各自でUSBを準備しておいて下さい。

科目名: 外国語 I

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

外国語 I では、医療現場で役立つ英単語と英会話の習得。Reading に偏らず listening speaking writing をバランスよく学ぶことが出来るようにしたい。英語に慣れてもらうために音楽やクイズなども取り入れたい。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	自己紹介の方法、講義内容説明 Unit 1 Asking Basic Questions	講義	
2	Unit 2 A Patient's First Visit	講義	
3	Unit 2 A Patient's First Visit	講義	
4	Unit 3 Where's Internal Medicine?	講義	
5	Unit 3 Where's Internal Medicine?	講義	
6	Unit 4 Admission to the Hospital 単語小テスト①	講義	
7	Unit 4 Admission to the Hospital	講義	
8	Unit 5 Giving Information	講義	外部講師
9	Unit 5 Giving Information	講義	
10	Unit 6 Symptoms	講義	
11	Unit 6 Symptoms	講義	
12	Unit 7 Injuries and Emergencies 単語小テスト②	講義	
13	Unit 7 Injuries and Emergencies	講義	
14	Review all the Units 単語小テスト③	講義	
15	スピーキングチェック	面接試験	
19	筆記テスト(45 分間)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
筆記試験、小テスト	80%, 20%	

受講上の注意

できるだけ大きな声を出してはっきりと英語を発音する。失敗や言い直しを恐れない。クラスメートの発表は真剣に聞く。ペアワークは相手の顔をきちんと見てやる。私語は慎む。

テキスト・参考文献

Speaking of Nursing 著: Peter Vincent, Alan Meadows 南雲堂

科目名:外国語Ⅱ

単位及び時間数(配当年次):1 単位 30 時間 (1 年次後期) 授業目的及び到達目標:

外国語Ⅱでは、外国語Ⅰで学んだことをさらに発展させることを目標とする。これまで学んだことを実践することで英語への抵抗感をなくしたい。また、テーマを決め、毎回数名ずつスピーチをするなどして、少しでも英語を話すことに慣れ、自信をつけて欲しい。

回数	授業内容		担当者
1	Unit8 How are you feeling?		
2	Unit8 How are you feeling?	講義	
3	Unit8 How are you feeling?	講義	
4	Unit 9 A Patient's Medical History 単語小テスト①	講義	
5	Unit 9 A Patient's Medical History	講義	
6	Unit 9 A Patient's Medical History	講義	
7	Unit 10 Medicine 単語小テスト②		
8	Unit 10 Medicine	講義	外部講師
9	Unit 11 I'm Going to give You an IV 単語小テスト③	講義	ントロリュー
10	Unit 11 I'm Going to give You an IV	講義	
11	Unit 11 I'm Going to give You an IV		
12	Unit 12 Congratulations! You're Having a Baby Girl.	講義	
13	Unit 12 Congratulations! You're Having a Baby Girl	講義	
14	Review all the units Appendix	講義	
15	スピーキングチェック		
10	筆記テスト(45 分間)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
筆記試験、小テスト	80%, 20%	

受講上の注意

できるだけ大きな声を出して英語を発音する。失敗や言い直しを恐れない。クラスメートの発表はしっかり聞く。ペアワークは相手の顔をきちんと見てやる。私語は慎む。

テキスト・参考文献

Speaking of Nursing 著: Peter Vincent, Alan Meadows 南雲堂

科目名: 人間とスポーツ I

単位及び時間数配当年次):1単位 30 時間 (1年次前期) 授業目的及び到達目標:

人間生活とスポーツは切り離せない。健康の保持・増進だけではなく、球技によるチームワーク、人との交流、スポーツと身体機能の関係など、スポーツを通じてその意義について考える。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	授業説明	講義(学内)	
2	基本運動・柔軟運動(レクリェーション)	実技	
3	卓球・フロアー卓球	実技	
4	卓球	実技	
5	ボール運動・ドッヂボール	実技	
6	ソフトバレーボール	実技	
7	バレーボール・ ソフトバレーボール	実技	
8	バドミントン	実技	外部講師
9	バドミントン	実技	
10	フットサル	実技	
11	キックベースボール	実技	
12	フープ運動・長縄	実技	
13	長縄・短縄	実技	
14	リクエスト運動(ファミリーバドミントン/キックベースボール/ドッヂビー/etc)	実技	
15	レクリェーションゲーム大会	講義(学内)	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
単位認定	授業中の取り組み態度・出席	安全対策・健康の3原則の資料提出

受講上の注意

大和高田市総合体育館で実施するので、交通に気をつけて、時間厳守で行くようにして下さい。 なお、自家用車やバイクの使用は禁止しています。

授業時間は14:00~15:30です。

服装は、学校指定のジャージ、体操服を着用のこと。 体育館シューズを忘れない。

※インターネット等で地図を確認のうえ向かってください

テキスト・参考文献

健康の3原則(栄養・運動・休養)の資料(小冊子)を参考!!

科目名: 人間とスポーツⅡ

単位及び時間数配当年次):1単位 30 時間 (1年次後期) 授業目的及び到達目標:

スポーツは体力の増強にとどまらず、人と人との関わり、ルールの保守、勝者敗者への賞賛や感動など精神的・社会的な学習の要素を含む。

古代から喜び歌い踊る人々が集うなど人間の生活に欠かせない活動、人間生活にとってスポーツが果たす役割を授業を通して考える。

スポーツを通して自分を解放し、クラスとのチームワークや人間関係を深めることができる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	フロアー卓球 ・ 卓球	実技	
2	卓球大会 (リーグ and トーナメント)	実技	
3	バレーボール or ソフトバレーボール	実技	
4	バレーボール(ソフトバレーボール大会)	実技	
5	バドミントン	実技	
6	バドミントン大会	実技	
7	ポートボール	実技	
8	ポートボール大会	実技	外部講師
9	フットサル	実技	
10	フットサルリーグ大会	実技	
11	キックベースボール	実技	
12	ティバッティング野球	実技	
13	運動会遊び	実技	
14	リクエスト運動(ファミリーバドミントン/キックベースボール/ドッヂビー/etc)	実技	
15	レクリエーション大会	実技	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意
単位認定	授業中の取り組み態度・出席	安全な服装と安全確保の意識

受講上の注意

大和高田市総合体育館で実施するので、交通に気をつけて、時間厳守で行くようにして下さい。

なお、自家用車やバイクの使用は禁止しています。

服装は、学校指定のジャージ、体操服を着用のこと。体育館シューズを忘れない。

科目名:解剖生理学 I

単位及び時間数(配当年次):1単位 20時間(1年次前期)

講義概要: 看護の基礎である人体解剖学、生理学を理解する

到達目標: 正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて

重要である。解剖生理学Iでは、人体の細胞、組織についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と

心臓を学ぶ。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	人体の概要と構成する組織や細胞の形態と機能	講義	
2	細胞の増殖と染色体	講義	
3	人体を構成する組織の形態と機能	講義	
4	血液の循環とその調節 1(心臓の構造)	講義	
5	血液の循環とその調節 2(心臓の整理)	講義	
6	血液の循環とその調節 3(動脈系)	講義	外部講師
7	血液の循環とその調節 4(動脈系・静脈系)	講義	
8	血液の循環とその調節 5(静脈系・リンパ系)	講義	
9	血液の循環とその調節 6(血液・血圧の調節)	講義	
10	呼吸と血液の働き 1(呼吸器の構造)	講義	
	単位認定試験(45分間)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	評価および注意
定期試験	100%	

受講上の注意

各章が終わる時点で、問題プリントを配布するので、自習すること。

書名	出版社	
系統看護学講座 基礎専門分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	医学書院	
看護師国家試験 解剖生理学 クリアブック	医学書院	

科目名:解剖生理学Ⅱ

単位及び時間数(配当年次):1単位 20時間(1年次前期)

講義概要:看護の基礎である人体解剖学、生理学を理解する。

到達目標:解剖生理学Ⅱでは、生命維持に必要な呼吸、血液、体液、消化と吸収を行う消化器系と生殖器系を学

5

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	呼吸と血液の働き2 (呼吸器の整理)	講義	
2	呼吸と血液の働き3 (血液)	講義	
3	呼吸と血液の働き4(血液)	講義	
4	栄養の消化と吸収1	講義	
5	栄養の消化と吸収2	講義	
6	栄養の消化と吸収3	講義	外部講師
7	体液の調節と尿の生成1(泌尿器系の構造)	講義	
8	体液の調節と尿の生成2 (体液の調節)	講義	
9	生殖器系(男性)	講義	
10	生殖器系(女性)	講義	
10	単位認定試験(45 分間)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	評価および注意
定期試験	100%	

受講上の注意

各章が終わる時点で、問題プリントを配布するので、自習すること。

書名	出版社
系統看護学講座 基礎専門分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	医学書院
看護師国家試験 解剖生理学 クリアブック	医学書院

科目名:解剖生理学Ⅲ

単位及び時間数(配当年次):1単位 20時間(1年次前期)

講義概要: 看護の基礎である人体解剖、生理学を理解する。

到達目標: 解剖学Ⅲでは、運動、情報の働きをする骨・筋肉、神経系とホメオスタシスを維持するために働く

内分泌・自律神経。免疫系を学ぶ。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	体の支持と運動 1(骨格系)	講義	
2	体の支持と運動 2(骨格系・筋系)	講義	
3	体の支持と運動 1(筋系)	講義	
4	内臓機能の調節 1(内分泌)	講義	
5	内臓機能の調節 2(自律神経)	講義	
6	身体機能の防御と適応 1(免疫)	講義	外部講師
7	身体機能の防御と適応 2(免疫・体温)	講義	
8	情報の受容と処理 1(脳と脊髄)	講義	
9	情報の受容と処理 2(脊髄神経・脳神経・脳の統合機能)	講義	
10	情報の受容と処理 3(感覚器)	講義	
10	単位認定試験(45 分間)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	評価および注意		
定期試験	100%			

受講上の注意

各章が終わる時点で、問題プリントを配布するので、自習すること。

書名	出版社
系統看護学講座 基礎専門分野 人体の構造と機能① 解剖生理学	医学書院
看護師国家試験 解剖生理学 クリアブック	医学書院

科目名:看護形態機能学

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的 日常生活行動に重点を置いた看護の枠組みでからだを見直し、看護につなげるからだの知識を理解する

目標・からだの中を透視してみることができる。

- ・からだの部位や臓器の名称・構造を説明できる。
- ・日常生活行動の最も一般的な型についてのからだの仕組みを説明できる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	何のための生活行動か 恒常性維持のための物質の流通	講義	
2	恒常性維持のための調節機構	講義	
3	"動く" ということ	講義	
4	"食べる" ということ	講義	
5	"トイレにいく"ということ	講義	専任教員
6	"息をする"、"話す・聴く" ということ	講義	
7	"眠る"、"お風呂に入る"ということ	講義	
8	単位認定試験(45分)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	評価および注意
筆記試験	100%	

書名	出版社
看護形態機能学 菱沼典子 著	日本看護協会出版会

科目名: 生化学

単位及び時間数(配当年次):1 単位30時間(1年後期)

授業目的及び到達目標:

目的:生化学は人体の生命現象を分子レベル(化学の言葉)で説明しようとするものです。本講義では、遺伝と遺伝情報の基本的な発現の仕組み、生体成分とそれらの合成・分解などの代謝反応、多細胞生物におけるシグナル伝達の機構などを学修することによって、健康ならびに疾病発生のメカニズムの基礎知識を習得する。

目標:生命現象の根底にある種々な物質的(化学的)の基本的な変化過程を学習します。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	生体の階層性と細胞の構造。オルガネラの機能	講義	
2	細胞膜と膜タンパク質の働き	講義	
3	生体成分の化学(1) 糖質の構造と機能	講義	
4	生体成分の化学(2) 脂質の構造と機能	講義	
5	生体成分の化学(3) タンパク質の構造と機能	講義	
6	酸素と代謝(1)酵素タンパク質	講義	
7	酵素と代謝(2)糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝の概要	講義	外部講師
8	遺伝情報の保存と発言(1)核酸の構造と機能	講義	
9	遺伝情報の保存と発言(2)複製のメカニズム	講義	
10	遺伝情報の保存と発言(3)転写のメカニズム	講義	
11	遺伝情報の保存と発言(4)翻訳のメカニズム	講義	
12	シグナル(情報)伝達(1)多細胞生物における細胞間情報伝達	講 義・DVD	
13	シグナル(情報)伝達(2)脂溶性リガンドの細胞内情報伝達	講義	
14	シグナル(情報)伝達(3)水溶性リガンドの細胞内情報伝達	講義	
15	シグナル(情報)伝達(4)水溶性リガンドの細胞内情報伝達 単位認定試験(45分間)	講 義 筆記試験	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意	
授業課題	15 %	各回の授業内容に密着した課題(小テスト形式)	
単位認定試験	試験 85 % 全授業の学習・理解度を確認する筆記試験		

受講上の注意

高校時代の生物と化学の知識が生化学の基礎となるので、復習しておいて下さい。 毎回の授業内で実施する授業課題等の振り返りを通じ、授業内容の復習を積み重ねて下さい。

テキスト・参考文献

テキスト : 医学書院 系統看護学講座 「生化学-人体の構造と機能 2」畠山鎮次著 第14版

科目名:病理病態学

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的: 病気になった原因を探り、患者の身体に生じている変化がどのようなものであるか、どのように推移し

最後にどうなるかなどの、いわゆる病変や疾患の本質を理解することを目的とする。

目標: 総論で基礎的知識を学び、各論でよく遭遇する病気の主要な症状・兆候について学ぶ。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	総論 : 退行性、進行性病変	講義	
2	総論 : 代謝障害	講義	
3	総論 : 先天異常と遺伝子異常	講義	
4	総論 : 循環障害	講義	
5	総論 : 炎症・修復・免疫・アレルギー	講義	
6	総論 : 感染症	講義	
7	総論 : 腫瘍	講義	
8	総論 : 循環器疾患	講義	外部講師
9	総論 : 血液疾患	講義	
10	各論 : 呼吸器系疾患	講義	
11	各論 : 消化器系疾患	講義	
12	各論 : 肝・胆・膵疾患	講義	
13	各論 : 泌尿生殖器系	講義	
14	各論 : 神経・筋・骨疾患	講義	
15	単位認定試験(45分間)	筆記試験 講義	

授業の評価計画

種別	割合	詳細
筆記試験	100%	

受講上の注意

参考資料プリント配布

テキスト・参考文献

テキスト: 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 医学書院

科目名: 微生物学(免疫)

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的:各種感染症の分類、感染防御、院内感染対策などの基礎的知識を学ぶ。 目標:微生物の分類や特徴を知り、人間の疾患に関与する基礎的知識を習得する。

回数	授業内容	授業形態	担当者	
1	微生物概論(細菌・真菌)			
2	微生物概論(原虫・ウイルス)			
3	感染症の予防・感染症の治療			
4	感染と感染症、感染に対する生体防御 1			
5	感染に対する生体防御2			
6	感染に対する生体防御 3、感染症の現状と対策			
7	病原細菌と細菌感染 1	— 講義 外部講師		
8	病原細菌と細菌感染 2		外部講師	
9	病原細菌と細菌感染 3			
10	病原真菌と真菌感染症			
11	病原原虫と原虫感染症			
12	おもなウイルスとウイルス感染症 1			
13	おもなウイルスとウイルス感染症 2			
14	おもなウイルスとウイルス感染症3			
15	単位認定試験	筆記試験		

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	100%	教科書、配布プリント等、全て持込み可

受講上の注意

教科書、配布するプリントを必ず持参する。

テキスト・参考文献

系統看護学講座	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	医学書院	

科目名:臨床薬理学

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標 :

古代の薬は洋の東西を問わず人類が経験的に知った草根木皮の類である。最近では薬品の開発が進み、臨床薬理による比較試験によって薬品の有効性と有害性の関係が明示されている。しかし、薬は常に人間が関与する。薬を発明・発見する人、薬品を作る人、処方する人、服用する人、いずれも薬の有効性・有害性を正しく身につけておかなければならない。薬品としての量、その特徴、副作用、服用の仕方などである。それを怠ることで薬は毒にも害にもなる。薬=薬物療法は医療・治療の最たるものである。しかし、その扱いは誤れば人命を奪うことにも成りかねない。特に看護師は患者に最終的な与薬に関与することが多いので、医療過誤の問題は重要である。そのためには薬の知識が重要である。薬の間違いがないよう、できるだけ臨床で使える実際的な内容とする。そのため、「作用機序と分類」「副作用と・相互作用」「使い方」「看護の上の注意点」と系統立てて学ぶ、本講では、まず、薬とは何か、薬の種類・取り扱い、薬物を左右する要因、薬物の作用とその特徴、吸収と排泄について学び、次に疾病と薬物療法を中心に学んでいく。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	薬理作用の基礎 薬に求められる条件、作用原理、受容体とは	講義	
2	薬の吸収・分布・代謝・排泄 相互作用のメカニズム、薬物血中濃度モニタリング	講義	
3	各治療のメカニズム 心機能を助ける薬、高血圧・低血圧に用いる薬	講義	
4	不整脈に用いる薬 脂質異常症に用いる薬、血栓形成を阻害する薬	講義	
5	鉄欠乏性貧血と鉄剤 消化性潰瘍に用いる薬、消化管運動を改善する薬	講義	
6	下痢に用いる薬、便秘に用いる薬 胆嚢・膵臓疾患に用いる薬	講義	
7	糖尿病に用いる薬 甲状腺の病気に用いる薬	講義	
8	痛風・高尿酸血症に用いる薬、前立腺肥大症に用いる薬 骨に作用する薬、咳・痰に対する薬	講義	薬剤師
9	気管支喘息に用いる薬、抗炎症・免疫抑制作用を示す薬 非ステロイド系抗炎症薬	講義	
10	関節リウマチに用いる薬 病原微生物と抗菌薬 / 抗ウイルス薬	講義	
11	抗不安・催眠作用を示す薬、てんかんに用いる薬 パーキンソン病に用いる薬	講義	
12	うつ病を改善する薬、片頭痛に用いる薬 モルヒネの鎮痛作用	講義	
13	認知症に用いる薬、抗腫瘍薬 緑内障・白内障に用いる薬	講義	
14	国家試験対策 (授業復習)	講義	
15	重篤な薬物有害反応 単位認定試験(45分間)	講義 筆記試験	

授業の評価計画

種別	割合	詳細
筆記試験	100%	

テキスト・参考文献

テキスト:疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学 医学書院

科目名:疾病と治療 I (脳神経・循環器・血液・造血 / アレルギー・膠原病)

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標 :

- 1. 血液・循環器系・脳血管機能障害の病態・症状・治療について理解できる。
- 2. アレルギー・膠原病の症状・治療について理解できる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1 2 3 4 5 6	循環器 症状とその病態生理 検査と治療 主な検査、内科的治療、外科的治療 疾患の理解 虚血性心疾患 - 労作性狭心症、急性冠症候群 心不全、不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋疾患 - 心筋症 動脈系疾患 - 大動脈解離、閉塞性血栓血管炎、閉塞性動脈硬化症	講義	医師
7 8 9	血液・造血器 検査・診断と症候・病態生理 疾患の理解 赤血球系の異常 - 鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血 造血器腫瘍 - 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 出血性疾患 - 血小板異常による出血性疾患 凝固異常による出血性疾患、DIC	講義	医師
10 11 12	脳・神経 症状とその病態生理 - 意識障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 検査・診断と治療・処置 疾患の理解 脳疾患 - 脳血管障害 (クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作) 脳腫瘍(グリオーマ、髄膜腫)、頭部外傷、水頭症 筋疾患・神経疾患 - 重症筋無力症、 脱髄・変性疾患 - パーキンソン病・症候群、筋委縮性側索硬化症 認知症 - アルツハイマー病、脳血管性痴呆症	講義	医師
13 14 15	アレルギー 検査、治療 症状と疾患の理解 アナフィラキシー、薬物アレルギー 膠原病 症状とその病態生理 検査と治療 疾患の理解 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス 全身性強皮症	講義	医師
	単位認定試験(45 分間)	筆記試験	全担当者

評価方法

種別	割合	評価および注意
筆記試験	循環器 40%、血液・造血器 20%、脳・神経 20%、アレ・感染 20%	

	出版社	
循環器	成人看護学3 循環器	医学書院
血液・造血器	成人看護学4 血液・造血器	医学書院
脳•神経	成人看護学7 脳・神経	医学書院
アレルギー・膠原病・感染症	成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症	医学書院

科目名:疾病と治療Ⅱ(消化器 / 内分泌・代謝 / 呼吸器・感染症)

単位及び時間(配当年次):1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

- 1. 消化器の疾患の病態・症状・治療について理解できる。
- 2. 内分泌、栄養・代謝の病態・症状・治療について理解できる。
- 3. 感染症及び、呼吸器系の症状・治療について理解できる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1 2 3 4 5	消化器 検査と治療 疾患の理解 食道の疾患 - 食道ガン 胃・十二指腸疾患 - 胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃ガン 腸および腹膜疾患 - 過敏性腸症候群、クローン病 腹膜炎、虫垂炎、ヘルニア、腸閉塞、ポリープ、大腸がん 肝臓・胆嚢の疾患 - 肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症 肝がん、胆石症、胆嚢・胆管がん 膵臓の疾患 - 膵炎、膵がん	講義	医師
6 7 8 9	呼吸器 検査と治療・処置 疾患の理解 感染症・肺炎、結核 気道疾患・気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 呼吸不全、肺腫瘍 胸膜の疾患・自然気胸 感染症 感染症とは 感染症とはなにか 感染が成立する条件 病態生理 症状 治療 疾患の理解 発熱・不明熱、菌血症・敗血症、 HIV 感染症と日和見感染症、多剤耐性菌感染症	講義	医師
10 11 12 13 14 15	内分泌・代謝 検査 疾患の理解 (内分泌疾患) 視床下部一下垂体前葉系疾患 - クッシング病 視床下部一下垂体後葉系疾患 - 尿崩症 甲状腺疾患ー橋本病、バセドウ病 副甲状腺疾患、副腎疾患 内分泌疾患の救急治療(甲状腺クリーゼ) (代謝疾患) 糖尿病 脂質異常症、尿酸代謝異常	講義	医師
	単位認定試験(45分)	筆記試験	全担当者

評価方法

種別	割合		評価および注意	
筆記試験	消化器 呼吸器 内分泌・代謝	40% 40% 20%	の割合で試験を 実施する。	

	書名	出版社
消化器	成人看護学5 消化器	医学書院
呼吸器・感染症	成人看護学2 呼吸器 / 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症	医学書院
内分泌・代謝	成人看護学6 内分泌・代謝	医学書院

科目名:疾病と治療V(小児の疾病)

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

1. 小児疾患の病態や症状・治療について理解できる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	染色体異常・胎内環境により発生する先天異常、新生児の疾患	講義	
2	代謝性疾患、内分泌疾患、アレルギー性疾患	講義	
3	血液・造血器疾患,悪性新生物,腎疾患	講義	
4	消化器疾患,小児外科疾患	講義	医師
5	感染症	講義	川山之
6	神経疾患	講義	
7	呼吸器疾患,循環器疾患	講義	
8	単位認定試験(45 分間)	筆記試験	

評価方法

種別割合		評価および注意	
筆記試験	100%		

書名	出版社
小児看護学〔2〕小児臨床看護各論	医学書院

科目名:医学概論

単位及び時間数(配当年次):1単位 15時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的 医療人になるための基礎になることを学ぶ

目標 ・健康と病気、治療の概念を知る

- ・医学、医療がどのように発展してきたかを知り、現代の医療を学ぶ
- ・現代医療の問題、医療倫理を知る
- ・専門職としての姿勢、チーム医療、多職種との連携・協働を学ぶ
- ・QOL を考慮した医療のありかたを学ぶ

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	第1章 医療と看護の原点	講義	
2	第2章 医療の歩みと医療観の変遷	講義	
3	第3章 私たちの生活と健康	講義	
4	第4章 科学技術の進歩と現代医療の最前線	講義	
5	第5章 現代医療の新たな課題	講義	学校長(医師)
6	第6章 医療を見つめ直す新しい視点	講義	
7	第7章 保健・医療・福祉の潮流	講義	
8	単位認定試験(45分)	筆記試験	

評価方法

種別	割合	評価および注意
筆記試験	100%	

書名	出版社
総合医療論	医学書院

科目名:看護学総論

単位及び時間数配当年次):1単位/30時間(1年次前期)

授業目的及び到達目標:看護を構成する要素は、人間、環境、健康、看護の4つである。看護は、人間を対象に 人間が行う援助である。それゆえに看護の対象である人間を理解する必要がある。本講義は、看護が何を目指し ているかを、人間、環境、健康、看護の概念から考察し、看護の目的、方法、対象を明確にする。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	I. 看護とは	グループワーク	
	1.看護師に抱くイメージ	講義	
	テーマ:「看護のイメージについて」・どのような看護を受けたいか		
2	2.看護の本質	講義	
	1) 看護を学び始めるにあたって 2) 看護の変遷		
3	3.看護の定義	講義	
4	①保健師助産師看護師法における定義 ②看護職能団体による定義	グループワーク	
5	③看護理論家にみる看護の定義 (グループワーク)		
6	4.看護の役割と機能	講義	
7	1)看護ケアについて (1)ケアとケアリングについて(2)ケア・キュア・コア		
	2)看護実践とその質保障に必要な要件		
	3)看護の役割・機能拡大 4)看護の継続性と情報共有…課題レポート		
8	Ⅱ. 看護の対象の理解	講義	
	1.人間の「こころ」と「からだ」		
	1)人体の構造と機能・病態生理		
	2)看護の使命と結びつくホメオスターシス		
	3)「こころ」と「からだ」にかかるストレスの影響		
	4)患者心理(病気による「こころ」の変化)の理解		専任教員
	5)対象者の「こころ」の理解に役立つ様々な理論		
	①マズローの欲求階説 ②危機理論(キュープラロス・フィンク)		
9	2.生涯発達しつづける存在としての人間	講義	
	1)身体的発育 2)心理・社会的側面における発達		
10	3.人間の「暮らし」の理解	講義	
	1)生活者としての人間:「生活」の4側面		
	2) 看護の対象としての家族・集団・地域 / 大和高田市を知る		
11	Ⅲ.国民の健康・生活の全体像の把握	講義	
	1.健康とはなにか・健康の捉え方 2.生活と健康		
	3.健康の実現: ヘルスプロモーション		
12	4.人々の生活と健康に関する統計	講義	
	1)人々の生活と健康に関する意義 2)私のライフコースと日本人の平均像		
	3)看護職としての健康指標を把握する 4)我が国の患者と医療の特徴	matte X2	
13	IV.看護の提供のしくみ	講義	
14	1.職業としての看護 2.看護職の養成制度と就業状況		
	3.看護職者の教育とキャリア開発 4.看護職者の養成制度の課題	all M. Dia a bare	
15	まとめ 45 分 / 単位認定試験 45 分	講義・筆記試験	

評価方法

	The state of the s				
種別		割合	詳細		
	筆記試験:レポート・グループワーク・学習の姿勢態度	7:3	グループワークの結果、発表時も評価の対象になる。レポートは提出期限を守ること		

テキスト・参考書

*テキスト: 看護学総論 / 出版社:医学書院 *参考書: 看護覚え書 / 出版社:現代社

科目名:看護倫理

単位及び時間数:1単位 15時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標: 医療の高度化・複雑化が進むなかで、今日、倫理的な配慮や判断が求められる課題は増加している。看護は、患者の倫理に携わることが多い。常に「看護師として看護実践において正しいことは何か、どうすることが良いことなのか、看護者として何を考え、何をすべきなのかを問う」ことが大切である。このことをできるために、本講義では、看護倫理についての知識と看護倫理について考える機会としたい。

	のためた、一种などは、自設間空にフィーでのが成じ自設間空にフィー	THE STATE OF THE	J
回数	授業内容	授業形態	担当者
1	I. 現代社会と看護倫理		
2	1.なぜ倫理について学ぶのか (グループワーク)	グループワーク	
	2.倫理とは、道徳、法	講義	
	3.職業倫理としての看護倫理		
3	Ⅱ. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理		
4	1.患者の権利とインフォームドコンセント	≭ * *	
	2.現代医療におけるさまざまな倫理(グループワーク)	講義	
	3.医療専門職の倫理規定	グループワーク	
	4.わが国の看護倫理への取り組み		専任教員
5	Ⅲ. 看護実践における倫理問題への取り組み		
6	1.看護の本質としての看護倫理		
7	2.医療をめぐる倫理原則とケアの倫理	講義	
	*実習において看護学生として考えること(グループワーク)	グループワーク	
	3.倫理的課題に取り組むためのしくみ		
	*まとめ		
試験	単位認定試験(45分)	筆記試験	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験・グループワーク(内容・発表)	$70\% \cdot 30\%$	

テキスト・参考文献

テキスト: 医学書院 看護学概論

その他 : 講義内容に応じて適宜資料を配布します

科目名: 看護過程と看護診断

単位及び時間数:1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

看護過程とは、看護の目標を成し遂げるための計画的な一連の行為であり、看護実践を実施するための系統的で意図的な手段や方法を表した思考過程のことである。本講では、看護過程の構成要素である ①アセスメント(情報収集・情報の分析・問題の抽出) ②看護上の問題の特定 ③看護計画 ④実施 ⑤評価 の基礎的知識を学習し、それぞれの意味を理解する。それをもとに、事例をもちいて上記の5段階の過程を学習する。その枠組みとして、ゴードンの機能的健康パターンを用いる。そのことで、患者が健康を回復するには何が必要かを考える過程を学ぶ。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	1. 看護過程とは何か	講義	
2	2. 看護過程の構成要素		
	1) アセスメント 2) 看護上の問題の特定 3) 計画 4) 実施		
	5) 評価		
3	3. 関連図について	講義	
4	4. ゴードンの機能的健康パターンについて		
5	5. 事例を用いての看護過程の実際		
6	6. 看護診断について		
7			専任教員
8		個人学習	
9		グループ。ワーク	
10			
11			
12			
13			
14			
15	単位認定試験(筆記試験・看護過程レポート)		

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験・レポート	40% • 60%	

テキスト・参考文献

テキスト: メヂカルフレンド社 ・・・基礎看護技術 I

ヌーベルヒロカワ社・・・ ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断

医学書院・・・ これなら使える看護診断

学研・・・・・ 症状別看護

科目名:共通の基本技術

単位及び時間数:1単位 30時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的:看護実践の基礎となる共通基本技術について学習する。

目標:

- 1) 看護技術について理解する。
- 2) 人間にとっての環境の意義を理解し、快適な生活環境を整えるための知識と方法を学習する。
- 3) 看護が安全を保証することの重要性を理解する。
- 4) 安全を脅かす要因について理解し、危険性をアセスメントし予防策を学習する。
- 5) 安楽の意義を理解する。
- 6) 看護におけるコミュニケーションの必要性について知る。
- 7) 看護における観察・記録・報告の重要性を理解し、その方法を学習する。
- 8) バイタルサイン (呼吸・体温・脈拍・血圧・意識) の基礎的知識を学習する
- 9) バイタルサインの正確な測定方法を習得する。
- 10)終末期における看護について知る。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	看護技術とは		専任教員
2	安全・安楽とは	講義	
	看護における安全・安楽の重要性 リスクトレーニング		
3	感染予防の基礎知識。スタンダードプリコーション	講義	
	感染予防における看護師の責務と役割	叶子文	
4	感染予防策(衛生的手洗い)と実際	講義	
		演習	
5	環境とは? 環境整備の方法・ベッドメーキング	講義	
		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
6 · 7	環境整備・ベッドメーキングの実際	講義	
8	看護におけるコミュニケーションと必要性	講義	
9	観察・記録・報告の方法		
10	バイタルサイン(呼吸・体温・脈拍・血圧・意識レベル)	講義	
11		7,7,7,2	
12	ンフセッコ-フン CHIピーの (Triby (A ドゥーピ ロ ドゥーピー)	›/ 스 코코	
13	バイタルサイン測定の実際(A グループ・B グループで)	演習	
14	終末期における援助とは		
	I. 終末期におけるニーズと援助		
	Ⅱ. 臨終期の看護	講義	
	▲臨終前後患者の状態 ®臨終まぢかの看護 ◎臨終時の看護		
	①死後のケア		
15	評価(筆記試験、技術評価)	評価	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験・実技試験	60% • 40%	

テキスト・参考文献

テキスト: メヂカルフレンド社 基礎看護技術 I・Ⅱ

科目名:日常生活の援助技術 I (食事・排泄)

単位及び時間数 (配当年次):1単位 20時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標

目的: 人にとって食事や排泄することの意味や解剖生理学的なメカニズム、

援助方法(援助技術)について学ぶ。

目標: 食事 1)食事の意義と機能について理解する。

2) 食事摂取への援助方法について理解し、援助技術を取得する。

4) 口腔ケアの意義と援助技術について理解する。

5) 経腸栄養の目的と方法、合併症を理解する。

排泄 1) 排泄の意義と機能について理解する。

2) 排泄にかかわる援助方法について理解し、援助技術を取得する。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	食べるとは(復習) 摂取の援助方法	講義	
2	食事・栄養の情報とアセスメントについて 医療施設での食事の種類	講義	
3 4	栄養摂取の援助方法と口腔ケア	演習	
5	経管栄養法について 経管栄養法の準備・挿入・固定について (モデル人形使用)	講義	市バサロ
6	排泄するとは(復習) 排泄の援助方法	講義	専任教員
7	排泄の情報とアセスメントについて	講義	
8 9	排泄の援助方法 床上での便器・尿器、オムツの当て方 陰部の清潔 実施と観察、報告	演習	
10	筆記試験 (45 分) / 技術試験 (45 分)		

テキスト) 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メジカルフレンド社)

参考文献)解剖生理学(医学書院)看護形態機能学(日本看護協会出版)

図書室に関係文献が多数あります

評価方法) 筆記試験・レポート・姿勢態度 70% / 技術試験 30%

科目名:日常生活の援助技術 II (活動、休息、姿勢)

単位及び時間数:1単位 20時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的:活動・休息における基本的な知識・技術を理解し、その援助方法を習得する。

目標: 1) 基本的な体位および安全・安楽な体位を理解し、その方法を習得する。

- 2) 活動の意義について理解できる。
- 3) ボディメカニクスを活用し、安全・安楽に体位変換ができる。
- 4) 運動機能が低下した人への援助について理解する。
- 5) 安全・安楽に移乗・移送するための基本的知識を理解し、その方法を習得する。
- 6) 睡眠・休息に関する基本的な知識および援助について理解できる。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1 2	基本的な体位 安楽な体位について 体位変換の目的とその方法について	講義	
3 4	体位変換 安楽な体位の保持 の実際 (A グループ・B グループ)	演習	
5 6	睡眠・休息について 活動の意義について 運動機能の低下した人の援助 ☆車椅子・ストレッチャーでの移動、移送について ☆座位保持・起立動作・歩行の援助について	講義	専任教員
7	ストレッチャーへの移乗と移送の実際(A グループ・B グループ)	演習	
8 9	車いす・ストレッチャーでの移乗・移送の実際(A グループ・B グループ)	演習	
10	筆記試験(45 分)		

評価方法

評価種別	割合
筆記試験	50%
実技試験	50%

受講上の注意

演習では、援助する上で基本的な技術を実際に患者役割・看護師役割をとりながら、体験的に学習します。

テキスト・参考文献

テキスト: 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社

その他、講義中に適宜紹介する。

科目名:日常生活の援助技術Ⅲ(清潔・衣)

単位及び時間数:1単位 30時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的:人間の皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関するメカニズムやアセスメント、対象が健康な生活を 送るために必要な清潔援助方法、援助技術を学ぶ。

目標:1)人間にとって身体の清潔や衣類の清潔がもたらす影響を理解する。

- 2) 衣生活・身体の清潔を保つことへの援助が必要な対象の状態に合わせた援助方法を考えるための 視点を理解する。
- 3)皮膚・粘膜の生理学的なメカニズムについて理解する。
- 4) 清潔にかかわる援助方法(目的、方法と根拠、留意事項)について理解し、援助技術を習得する。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	衣生活の意義 衣生活の援助技術 "寝衣交換"	講義	
2 3	衣生活の援助技術の実際 "寝衣交換" 課題:『皮膚・粘膜の構造と機能』	演習 課題学習	
4	皮膚・粘膜の構造と機能	講義	
5	清潔の援助の基礎知識① "入浴・洗髪・整容"	講義	
6 7	清潔の援助の実際 "洗髪" (Aグループ・Bグループ) 演習		
8	清潔の援助の基礎知識② "手浴・足浴・陰部洗浄"	講義	専任教員
9 10	清潔の援助の実際 "足浴"	演習	
11	清潔の援助の基礎知識③ "全身清拭"	講義	
12 13	清潔の援助の実際 "全身清拭" (Aグループ・Bグループ)	演習	
14	14 演習の振り返り		
15 45分 45分	単位認定試験	筆記試験 実技試験	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	50%	授業・演習・グループワーク時の姿勢・態度、
実技試験	40%	レポート等の提出物、出席状況を加味する。
レポート等の提出物	10%	

テキスト・ 会去咨判

テキスト : 基礎看護学技術Ⅱ メヂカルフレンド社

必要に応じて資料を配布します。

科目名:フィジカルアセスメント

単位及び時間数:1単位 30時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:援助を安全・適切に行うためには確かな観察力や判断力が求められる。フィジカルアセスメントはケアの根拠と効果の測定・評価のための目安や指針となる情報を得るためにも看護師にとって欠かせない技術である。本講では①対象の心身の状況に配慮しつつ、知識に基づいた基本的なフィジカルアセスメントが実施できること②フィジカルアセスメントが実際の看護の活用につなげていくことを学習し重要性が理解できることねらいとする。

回数	と440V・とする。 授業内容	担当者
1	I.・ヘルスアセスメント, フィジカルアセスメントとは : フィジカルアセスメント	
	の位置づけ / 定義 / 主観的情報と客観的情報 / 看護師にとって学ぶ意義	
	・フィジカルアセスメントの基本原則 ・5つの基本技術	
2 • 3	*バイタルサイン(体温・脈拍・血圧・呼吸)	
	Ⅱ. 呼吸器系のフィジカルアセスメント	
	・体表解剖・基本技術の重要点	
	・実際の内容 (視診・打診・触診・聴診の重要点 / 副雑音について)	
4 • 5	Ⅲ. 循環器系のフィジカルアセスメント	
	・体表解剖・基本技術の重要点	
2 -	・実際の内容(心音; I 音 II 音、頸静脈圧亢進測定)	
6 · 7	◎ 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントの演習	
8	VI. 消化器系のフィジカルアセスメント	
	・体表解剖・基本技術の重要点	
9	・実際の内容(腸蠕動音,腹壁のアセスメント,腹囲測定) ◎消化器系のフィジカルアセスメント演習	
10	V. 運動器系のフィジカルアセスメント	
10	・ 骨格 , 骨格筋 , 関節運動 ・ 基本技術の重要点	
	・実際の内容 (角度計,ROM, MMT)	
11	◎運動器系のフィジカルアセスメント演習	
12	IV. 神経系のフィジカルアセスメント	
	・中枢神経系とは・基本技術の重要点	
	・フィジカルアセスメントの実際(腱伸張反射、打腱器)	
13	VII. 頭頸部系(感覚器)のフィジカルアセスメント	
	・脳神経の機能 ・眼のフィジカルアセスメント (眼瞼結膜と瞳孔/対光反射・瞳孔	
	計)	
	・耳、甲状腺、頭頸部リンパ節のフィジカルアセスメント	
14	VIII. 急変時・意識状態のフィジカルアセスメント	
	全体のまとめ	
15	技術評価 (45分)	
	筆記試験 (45分)	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	50%	試験の際、持ち込みは一切できません。(小テスト・課題提出点含む)
技術試験	50%	フィジカルアセスメントの項目から技術の評価をします
		技術評価点は100点満点とし、80点未満は1回に限り再評価とします。

テキスト・参考文献

看護がみえる vol③ フィジカルアセスメント (MEDIC MEDIA)

その他、必要に応じて資料を配布します。また、解剖生理学のテキストも必要時使用します。 尚、各講義においてレジュメを配布しますのでノートは必要ありません。

科目名: 診療の補助技術 IA

単位及び時間数(配当年次): 1単位 15時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的:根拠に基づいた診療補助技術が、安全・安楽かつ確実に実施できるために必要な知識を身につける。 目標:

- 1) 診療補助技術が及ぼす身体への侵襲を理解し、患者の安全・安楽を守るための方法を考えることができる。
- 2) 感染防止や滅菌操作に関する基本的知識を習得する。
- 3) 創傷の管理と包帯法の基本的知識を習得する。
- 4) 呼吸・循環を正常に維持するための、基本的知識を習得する。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1 2	感染と感染予防策の基礎知識1. 滅菌包2. 消毒法3. 無菌操作4. ガウンテクニック		
3 4	創傷管理技術 1. 創傷の基礎知識 2. 創傷の観察 3. 創傷の処置	=#+ };	声 // 粉:早
5 6 7	呼吸・循環を整える技術 1. 気道分泌物の排出の援助(一時的口腔吸引、気管内吸引) 2. 酸素吸入療法 3. 噴霧吸入療法	講義	専任教員
8	単位認定試験(45分)		

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	100%	

テキスト・参考文献

基礎看護技術 I ·	Π	メヂカルフレンド社	※初回講義は基礎看護技術 I を使用します。
	ш		/ N I/IL III

科目名: 診療の補助技術 IB

単位及び時間数(配当年次): 1単位 20時間 (1年次後期)

授業目的及び到達目標:

目的:根拠に基づいた診療補助技術が、安全・安楽かつ確実に実施できるための基礎的な看護技術と態度を 身につける。

目標:1)診療補助技術が及ぼす身体への侵襲を理解し、患者の安全・安楽を守るための方法を考えることができる。

- 2) 感染防止や滅菌操作に関する技術を習得する。
- 3) 創傷の管理と包帯法についての技術を習得する。
- 4) 呼吸・循環を正常に維持するための、安全かつ効果的な援助方法の技術を習得する。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	滅菌物品の取扱い、ガウンテクニック、無菌操作、消毒法	演習	
2		供日	
3	創傷処置の方法、包帯法	演習	
4		供日	
5	呼吸・循環を整える技術(温罨法・冷罨法)	授業+演習	
6	呼吸・循環を整える技術(体位ドレナージ法)	授業+演習	
7	呼吸・循環を整える技術		専任教員
8	1. 口腔内吸引の方法		
9	2. 酸素吸入療法の方法	演習	
	3. 噴霧吸入の方法		
10	呼吸・循環を整える技術	演習(モデル)	
	4. 気管内吸引の方法	供自 (モブル) 	
	技術評価	実技試験	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意事項
実技試験	100%	

テキスト・参考文献

基礎看護技術 $I \cdot II$ メヂカルフレンド社

科目名:地域·在宅看護総論 I

単位及び時間数:1単位/15時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

諸外国に例を見ないスピードで少子高齢化となり、それに伴う人口減少が進むわが国では、住み慣れた地域で、人生の最期まで尊厳をもって、自分らしく生きることを支えるための地域包括ケアシステムを充実させることが重要となる。そのシステムの中での看護は、人が生まれてから看取りの時までの人生を通した支援、治し寄り添い支える医療、暮らしの場での療養生活、生活を基本とした連携の医療・ケアなどがあり、看護が担う役割は重要である。また、地域包括ケアシステムを促進するために、地域の人々とのパートナシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力が必要である。

在宅で療養生活を送る人々と家族、病気になっていない人、介護を必要としない人、つまり地域で暮らす人々すべてを看護の対象とし、まずは、地域の人々の暮らしの理解を深められるよう、生活とはなにか、地域とはなにかを深く学ぶことが必要である。そして、地域で提供される多様な看護を学び、多職種とともに地域の人々の生活の質を守る看護観、看護の役割を学ぶ。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1	◎人々の暮らしの理解		
2	◎地域・在宅看護の役割		
3	・暮らしを理解する	講義	
4	◎暮らしと地域	グループワーク	専任教員
5	◎地域包括ケアシステムと地域共生社会	演習	
6	・地域を理解する		
7	◎暮らしを支える看護・看護師の役割		

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
レポート・筆記試験	100%	グループワーク・課題学習・レポート等 の内容と提出状況、学習態度も対象とす
		る。

受講上の注意

地域・在宅看護論を理解する鍵は"生活"です。健康で毎日暮らしていると日々の何気ない日常に対して、その意味を捉えることはなかなかないと思います。暮らしとは…生活するとは…、どういうことか考えよう。

テキスト・参考文献

地域・在宅看護の基盤、医学書院 その他、必要に応じてプリントを配布します。

科目名:成人看護学総論

単位及び時間数 : 1単位 30時間 (1年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的: 1. 成人期にある対象とその生活を理解することに重点を置き、成人看護の目的や役割を学ぶ。

2. 成人看護に有用な概念を学ぶことで、成人期にある人へのアプローチの基本がわかる。

目標: 1) 成人期にある人の特徴を理解する。

- 2) 成人期の生活を理解する。
- 3) 成人期にみられる健康問題を理解し、その施策について学ぶ。
- 4) 成人への看護アプローチの基本を学び、看護職としての役割を理解する。
- 5) 継続的な移行支援について学ぶ

回数		授業内容	授業形態	担当者
	1	 成人期にある人の特徴を理解する。 1) 成人看護学について 2) 成人期の区分と各段階の特徴、発達段階について 2. 成人期の生活を理解する。 1) 成人と仕事、生活について 	講義	
	2		講義・GW	
	3		講義・GW	
	4		講義・GW	
	5	2) 統計からみる成人期の動向について	講義・GW	
	6	3. 成人期にみられる健康問題を理解し、その施策について学ぶ。	講義・GW	
	7	1) 生活習慣と健康問題 2) 職業と健康問題 3) ストレスと健康問題 4) 健康増進とその施策 4. 成人への看護アプローチの基本を学び、看護職としての役割を	講義・GW	- 専任教員
	8		講義・GW	
	9		講義・GW	
	10		講義・GW	
11		理解する。 1) 動機づけと行動変容	講義・GW	
12		2) 自己効力感と教育的アプローチ 3) 意思決定支援	講義・GW	
13		3) 息忠决足文货 4) 家族支援	講義・GW	
14		5. 継続的な移行支援について学ぶ。	講義・GW	
15	45 分	まとめ	講義	
10	45 分	6. 単位認定試験(筆記試験 45 分間)	試験	

評価方法

種別	割合	詳細及び注意	
筆記試験	90%	持ち込み不可	
課題等の提出物・姿勢・態度	10%	授業とGWでの参加姿勢や態度を 評価します。提出物は定められた 期日を守って下さい。	

テキスト

テキスト:成人看護学総論 医学書院

その他:必要に応じて資料を配布します。

科目名:老年看護学総論

単位及び時間数(配当年次):1単位 30時間 (1年次前期) 授業目的及び到達目標:

高齢化が進む昨今、看護師は病院や施設をはじめとする地域のさまざまな場で、高齢者とその家族に関わる機会が多くある。そのため老年期にある高齢者のことをよく理解しておくことが必要となる。この授業では老化や加齢に伴うさまざまな心身の変化、そして高齢者がどのような社会で生活しているのかを学ぶ。そのうえで高齢者の生活を支える社会の仕組みを理解する。加齢変化や疾患、障害をもちながらも、その人らしい生活を営み、人生の最後のステージを支えるための看護を考え、学ぶ機会とする。

回数	授業内容	授業形態	担当者
1 2	I. 老いるということ、老いを生きるということ 1. 老いるということ	講義	
3	加齢と老化について	中央主义	
4	身体的側面の変化 心理的側面の変化 社会的側面の変化	模擬体験	
5	2. 老いを生きるということ		
6	高齢者の定義発達と成熟		
7	Ⅲ. 超高齢社会と社会保障1. 超高齢社会の統計的輪郭		
8	超高齢社会の現況 高齢者と家族 高齢者の健康状態 高齢者の死亡 高齢者の暮らし	講義	
9	2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築		
10	高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3. 高齢者の権利擁護		専任教員
11	高齢者に対するスティグマと差別 高齢者虐待 身体拘束 権利擁護のための制度		
12 13 14	 Ⅲ. 老年看護のなりたち 1. 老年看護のなりたち 老年看護の定義 2. 老年看護の役割		
15	3. 老年看護に携わる者の責務	講義	
10	単位認定試験	筆記試験	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	90%	試験の際、持ち込みは一切できません
課題等の提出物・姿勢・態度	10%	提出物は定められた期日までに提出した 場合に得点となります

テキスト・参考文献

老年看護学 医学書院 その他必要に応じて資料を配布します

科目名: 小児看護学総論

単位及び時間数: 1単位 30時間(1年前期)

授業目的及び到達目標:

小児期は人間の生涯の中で、最もめざましく成長・発達する時期であり、限りない可能性を秘めている。その 反面、精神的・身体的に未熟・未完成であり、急速に変化する社会や家族の環境による影響を受けやすい。その 中で、成長・発達する子どもを健康・疾病の両側面から捉え、子どもと家族の理解を中心に、対象の能力を最大限に生かして、成長発達を阻害させないよう看護実践を行うことが重要となる。

小児看護における子どもの捉え方や特性について学び、子どもらしく療養できる環境を整えること、子どもの権利を保障すること、子どもとその家族が心身ともに健やかに成長・発達していけるように支援することが、小児看護の役割であることを理解する。

	授業内容	授業形態	担当者
1	小児看護の特徴と理念1. 小児看護の対象2. 小児看護の目標と役割3. 小児と家族の諸統計4. 小児看護の変遷5. 小児看護の課題	講義	
2 3	小児看護における倫理 1. 子どもの権利条約 2. 医療現場で起こりやすい問題点と看護 3. 臓器移植法 4. プレパレーション	講義	
4 5	子どもの成長と発達 1. 成長・発達の概念 2. 成長・発達の原則 3. 成長発達の影響因子 4. 成長・発達の評価	講義	
6	子どもにとっての栄養の意義、 授乳期・離乳期の栄養と支援	講義	
7 8 9	乳児期の特徴(形態的・身体生理的・情緒社会的) 幼児期の特徴(形態的・身体生理的・情緒社会的) 学童期の特徴(形態的・身体生理的・情緒社会的) 思春期・青年期の特徴(形態的・身体生理的・情緒社会的)	施設見学 or グループワーク	専任教員
10	新生児期の特徴	講義	
11	小児看護における理論 1. ボウルビィ 2. ピアジェ 3. エリクソン	講義	
12	家族の特徴とアセスメント	講義	
13 14	子どもと家族を取り巻く社会 1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 予防接種 4. 学校保健 5. 子どもの虐待と看護 6. 特別支援教育	講義	
15	子どもの遊びと学びの機能 単位認定試験(45分)	講義・ビデオ 筆記試験	

評価方法

評価種別	割合	詳細及び注意
筆記試験	90%	筆記試験 90 点満点とする
グループワーク	10%	グループワークの姿勢態度、提出物を含み 10 点満点

テキスト・参考文献

小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) その他参考文献に関しては資料を配布します

科目名: 基礎看護学実習 I

単位及び時間数: 1単位 45時間(1年後期) 1日6.5時間 7日間

目的

看護実践の場面を通して、看護の対象と看護の実際を知り看護師としての基礎的能力を養う。

目標

- 1. 患者がどのような環境で、入院し治療を受けているのか、日常生活を過ごしているのかを知る。
- 2. 看護師がどのように日常生活の援助や看護を行っているのかを知る。
- 3. 患者の思いや気持ちに関心を寄せることができる。
- 4. 看護技術を体験できる。
- 5. 看護の場面をとおして、看護師としての姿勢・態度や役割について考える。
- 6. どのような多職種が関わっているのかを知る。
- 7. 看護学生としての姿勢・態度を学ぶ。

実習内容(概要)

- ・看護師1人に、学生1人がついて、患者の日常生活や実際の看護場面を見学する。
- ・日常生活の援助については、指導者とともに部分的に実施する。

評価方法

- ・評価表 90 点:「基礎看護学実習 I 評価表」を用いて、評価日に指導者と面接にて行う。
- ・リフレクション10点:7日目に学内で行う。

担当者: 専任教員

留意事項:「令和5年度 実習要項」を熟読し、実習オリエンテーションを受けること。